



美しい 県土づくりNEWS

2014年
9月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第122号
平成26年9月30日発行
編集 県土整備企画室



三陸復興

目次

- 2 一般国道342号「花泉バイパス」全線開通
- 4 主要地方道大船渡綾里三陸線(仮称)小石浜トンネル
築造工事「安全祈願祭」を開催しました!
- 6 一般県道田野畑岩泉線室場の2地区道路改良工事の
現場見学会を開催しました!
- 7 平成26年度 北上川上流北上地区合同水防演習
- 9 道路愛護団体等への感謝状贈呈式を行いました!
- 10 インターンシップ実習を実施しました
- 12 建設技術講習会が盛岡市で開催されました

いわて花巻空港スカイフェスタ 2014 を開催しました

～これまでで最高の約5万人が来場～

平成26年9月23日(火・祝)、いわて花巻空港において「スカイフェスタ 2014」が開催されました。当日は、晴天に恵まれ、岩手初の航空自衛隊ブルーインパルスによる展示飛行も実施されました。

今年スカイフェスタでは、例年の数倍となる約5万人が訪れ、会場は大変な賑わいとなりました。

いわて花巻空港は今年で開港50周年となりました。県では今後もいわて花巻空港の一層の利用促進に取り組んでいきます。



展示飛行と賑わう空港内(Wエプロン)



開始式での達増知事挨拶



開始式での岩崎防衛省統合幕僚長挨拶

【開通式】

県南広域振興局長の式辞に引き続き、一関市長、県議会議員等の来賓の方などによる祝辞及びテープカット、くす玉割りを行いました。その後、交通安全祈願を行い、警察車両を先頭にパレード、花泉大橋の渡り初めを行いました。開通式典終了後には、開通祝賀行事を行い、地域の方々と開通を祝いました。



テープカット及びくす玉割り



パレード



親子三代夫婦による渡初



花泉保育園児による「二桜太鼓」



「老松大黒舞」と「祝い餅つき」

【開通による効果】



現道は、県道弥栄金成線・花泉藤沢線・若柳花泉線が交わる交通の要衝でありながら、道幅が狭く歩道も無い等、クランク等の線形不良があるなど、交通安全上の課題を抱えており、バイパスの早期整備が強く望まれていました。



今回開通した「花泉バイパス」は、県が復興支援道路として位置付けた国道 342 号の一部区間であり、東日本大震災津波により被災した沿岸地域の一日も早い復興の支援に必ずつながるものと期待しています。

主要地方道大船渡綾里三陸線（仮称）小石浜トンネル築造工事

「安全祈願祭」を開催しました！

沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター、道路建設課

平成26年8月28日、大船渡市三陸町綾里地区において、（仮称）小石浜トンネル築造工事の安全祈願祭を開催しました。

安全祈願祭は、工事の受注者である(株) 銭高組・豊島建設(株) 特定共同企業体が主催し、大船渡市の戸田公明市長をはじめ、地権者の方々や工事関係者など約50名が出席し、東日本大震災津波により犠牲になられたの方々へ黙祷した後、工事の安全と早期完成を祈願しました。

今後、トンネルの貫通は平成27年春頃、道路改良工事等の完成を含めた全線の開通は平成28年度を予定しています。

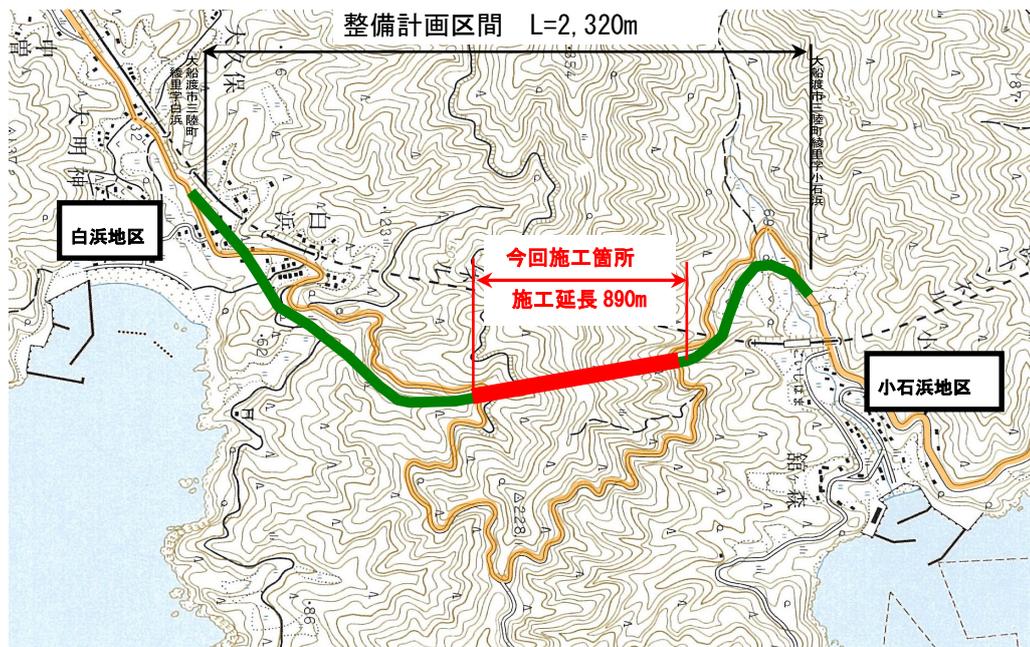
今回の安全祈願祭を弾みとして、安全に工事を進め、一日も早い完成を目指し、関係機関等との連携を図りながら取り組んでいきます。



工事概要

工事名	主要地方道大船渡綾里三陸線（仮称）小石浜トンネル築造工事
工事場所	大船渡市三陸町綾里地内
受注者	(株) 銭高組・豊島建設(株) 特定共同企業体
工事概要	施工延長 L=890.0m トンネル(NATM) L=840.0m 坑門工 N=2基
工期	平成26年3月6日～平成27年9月19日

位置図



事業概要

主要地方道大船渡綾里三陸線は、大船渡市を起点とし、旧三陸町に至る路線で、生活道路や観光施設へのアクセス道路のほか、東日本大震災津波の際には避難ルートとして、また、半島への救援物資等の輸送ルートとしての役割を担った路線であり、岩手県東日本大震災津波復興計画では、災害に強く信頼性の高い道路ネットワークの構築を図るため、当該路線を『復興関連道路』と位置付け、交通隘路の解消等を図ることとしています。

小石浜地区～綾里地区の現道約5kmについては、幅員が狭く1車線道路であり（最小幅員4.3m）、縦断勾配も急であることから（最大約12%）、トンネル築造を含めた道路改良工事を行っています。

- (1) 規格・延長 第3種第4級 2,320m（うちトンネル840m）
- (2) 道路幅員 一般部 5.5（7.0）m トンネル部5.5（6.5）m
- (3) 事業期間 平成23年度～平成28年度
- (4) 総事業費 27億円

現在の状況



一般県道田野畑岩泉線室場の2地区道路改良工事で 現場見学会を開催しました！

沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター

一般県道田野畑岩泉線室場の2工区において、平成26年8月27日に岩手県立種市高等学校海洋開発科の生徒が現場見学を行いました。

事業概要

一般県道田野畑岩泉線室場の2工区は、田野畑村千丈地区から岩泉町室場地区を結ぶ延長3.1kmの道路改良工事です。当区間は、広域農道との重複区間であり、幅員狭小で急カーブが多い状況にあることから、平成23年度に事業化しました。平成26年度は約2.6kmの道路改良工事及び約0.5kmの舗装工事を行う予定であり、平成28年度の供用を目指しています。

なお、前後の農道整備は平成22年度に完了しています。



●岩手県建設業協会の若手建設従事者入職促進の一環として、種市高校海洋開発科の生徒33人が現場見学しました。



●入庁2年目の佐々木技師が、事業概要について説明しました。生徒たちには、整備目的を理解していただけたようです。



●現場代理人の佐々木氏から工事内容の説明がありました。土質の特徴や現場で注意していることなど、現場目線の話に生徒たちは興味津々でした。



●種市高校の海洋開発科には、女子生徒が1人おり、女性でもこの業界でやっていけるか等質問をしていました。

●工事や構造物にかかる質問、やりがいや職場環境等の質問が積極的に出され、普段見ない現場に目を輝かせていました。



平成26年度 北上川上流北上地区合同水防演習

～北上市・和賀川グリーンパークで開催されました～

河川課



9月21日(日)、北上市の和賀川グリーンパークにおいて秋晴れの空の下、北上川上流北上地区合同水防演習が開催されました。日ごろから地域防災活動の第一線で活躍する消防団員による水防技術の披露のほか、消防本部を始め関係機関と連携する等、様々な演習が実施されました。



本演習は、水防関係者の士気の高揚と水防技術の向上及び防災関係機関相互の連携を確立し、水防体制の充実強化を図るとともに、水防に対する地域住民の理解を深め、広く協力を求めることにより、水害の未然防止又は軽減に資することを目的としています。



↓北上市内の自主防災組織による土のう積み訓練状況



↓水陸両用の救助車両



↓救助救出訓練状況



↓応急給食訓練状況





工法を実施する水防団の、団長を中心とした規律のある作業に、来場者からは大きな拍手が挙がりました。



↓ 本演習で実施された水防工法の実施及び完成状況

杭打積み土のう工法

※川裏法面の崩壊対策工法



釜段工法

※堤内地の漏水対策工法



上記のほか、「月の輪工法」「シート張り工法」など、合計7種類の水防工法が披露されました。

演習は緊迫感と臨場感に溢れ、演習本部長の指揮のもと、迅速かつ的確に行われました。演習に参加した水防団員や地域住民の方々、関係者等に対し、水防意識の高揚が図られたことと思われます。

かつて岩手県に甚大な被害をもたらしたカスリン・アイオン台風から六十余年が経過していますがその記憶をとどめつつ、昨年7月～9月にかけての集中豪雨や台風のように近年も洪水災害などが頻発していることから、今後も関係機関が一体となり、施設の整備とともに水防体制の充実を図り、水災害の防止と軽減に努めていくことが極めて重要となります。今後とも、河川・水防行政に御理解・御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



平成 26 年 9 月 21 日 演習会場より和賀川を望む

道路愛護団体等への 感謝状贈呈式を行いました！

道路環境課

国土交通省及び県では、毎年、道路の安全と道路の正しい利用の促進、道路環境の美化に多年にわたり功績のあった個人又は団体に対し、感謝状を贈り表彰しています。

今年度は、8月26日に盛岡市のエスポワールいわてにおいて、蓮見県土整備部技監から、国土交通大臣表彰受賞3団体へ感謝状を伝達しました。

◆ 国土交通大臣表彰 受賞団体 ◆

◇ 黒岩地区道路愛護会（北上市）

道路清掃のほか、不法投棄の確認、集中豪雨時の倒木確認に至るまで、基礎的な道路管理全般を実施されています。平成12年度の知事表彰受賞後も、継続して活動して頂いています。



◇ 厳美をきれいにする会（一関市）

活動範囲に国の指定名勝「厳美溪」を含み、観光客の散策路美化に貢献されています。昭和42年の設立以降、多くの官公庁・団体から表彰を受賞されています。



◇ 瀬月内自治会（九戸村）

花壇整備に力を入れており、赤・白・ピンク・黄・オレンジと色鮮やかな花々が所狭しと並ぶ花壇が、地域を彩っています。平成23年度の知事表彰受賞後も、継続して活動して頂いています。



道路愛護活動に取り組まれている皆様、
いつもありがとうございます！

インターンシップ実習を実施しました

県土整備企画室

平成26年9月1日（月）から5日（金）までの5日間、県土整備部では大学生を対象としたインターンシップ実習を受入れ、本庁各室課と沿岸広域振興局土木部にて実施しました。

実習に参加したのは、いずれも本県出身者で、本庁にて4名、沿岸広域振興局土木部にて1名が実習しました。

このうち、本庁で実習に参加した4名の状況について紹介します。

実習は、参加した学生の事前の希望を踏まえ、次の室課にて行いました。

実習生	実習担当室課
盛岡大学 畠中 未来 さん	県土整備企画室
秋田大学 泉田 侑太郎 さん	道路環境課
岩手大学 高泉 留衣 さん	河川課
筑波大学 佐々木 洋典 さん	都市計画課

【初日：9月1日】

実習生の4名は、それぞれ緊張した面持ちで県土整備企画室へ集合しました。

午前には、オリエンテーション、県のしくみと仕事、県土整備行政の概要についての説明を受けたあと、部長室訪問、部内各室課へのあいさつ回り、さらに、議会棟や県庁舎を見学しました。

県土整備部長からは「短い期間ではあるが、様々な人や仕事に触れて岩手県という組織の雰囲気を感じて欲しい」との激励を受け、また、各室課への挨拶では元気良く自己紹介していました。

議会棟の見学では、本会議場や各種委員会室等を見学し、ニュース番組等のテレビを通じてしか見たことのない場所を体感し、感激していた様子でした。

午後は、配属室課にて当該室課の分掌業務の説明を受けました。

【実習生のコメント】

県庁に来たこと自体が初めてだったのだが、今日1日でいろいろと知ることができた。県土整備部のしくみもおおよそ理解できた。議会棟を見学できたことは貴重なことであった。午後の業務説明では、私が思っていた以上に大変な仕事内容で驚いた。仕事ひとつひとつが細かく、もし私がここで仕事をするようになったらと思うと、すごく不安や焦りを感じた。もっと勉強しようと思った。

【2日目：9月2日】

各実習担当室課において、それぞれ実習を行いました。

道路環境課では業務説明のほか、盛岡市内にて道路補修の現場見学実習を行いました。

そのほかの実習生は、終日、業務説明を受けたり、資料作成実習を行ったりしました。

いずれの実習生も、県の仕事について、専門的かつ膨大であること、また、スケールの大きさや重要性の高さに驚いた様子でした。

【実習生のコメント】

個人で担当する業務がとても専門的だと感じた。一人ひとりの担当業務が幅広く、かつ規模が大きいものばかりであるため、すごくやりがいのある仕事だと思った。1日目より沢山質問ができ、“県で働く”ということを経験した。以前より現実的なものとして実感できた。

【3日目：9月3日】

前日に引き続き、各実習担当室課において、それぞれ実習を行いました。

県土整備企画室においては、財務会計システムの操作や各種資料の作成補助の実習を行いました。

道路環境課においては、道路の維持管理に関する説明をした後、実際に盛岡広域振興局土木部管内の道路パトロール実習を行いました。

河川課では、大船渡地域の河川・海岸の現場において、視察等の実習を行いました。

都市計画課でも大船渡地域において、復興まちづくりの現場視察等の実習を行いました。

【実習生のコメント】

陸前高田の海岸復旧工事や大船渡駅前の土地区画整理事業はこれからより大きな動きを見せるということで数年後ぜひ訪れたいと思った。また土地区画整理事業など聞いただけでは少しわかりづらいところもあったが実際に訪れて話を聞くことで理解を深めることができ、まさに「百聞は一見に如かず」だな、と思った。

【4日目：9月4日】

実習生全員にて、花巻空港事務所、綱取ダム管理事務所での現場見学等の実習を行いました。

花巻空港事務所では、空港管理業務の説明を受けたあと、化学消防車や除雪車両の見学、滑走路点検パトロールの実習を行いました。滑走路パトロールでは、滑走路上の全ての航空灯火を点灯した状態で実施したことから、壮観な環境での実習となりました。



【実習生のコメント】

花巻空港事務所では、実際に滑走路や消防車などを見学させていただいて大変貴重な体験になった。特に今まで気にかけたことがなかった照明関係が、空港でもとても重要な役割をしているということが今回の見学を通して分かった。

綱取ダム管理事務所では、ダム管理業務の説明を受けたあと、堤体内部の設備等を見学しました。放流管バルブの開放では、その水量に圧倒されていました。



【実習生のコメント】

綱取ダムは、堤体内部を見学した。普段は絶対に入れないであろう場所に入ることができて、とても面白かった。また、想定外の状況に陥らないように日常的に準備をしていくことがとても大切だと学んだ。

【最終日：9月5日】

前日に引き続き実習生全員で、北上川上流流域下水道事務所、築川ダム建設事務所の現場視察等実習を行いました。

北上川上流流域下水道事務所では、下水道事業の概要についての説明のあと、工事中区画の安全パトロールに同行しました。職員と請負業者とのやり取りや、安全管理に対する視点等について興味深く聞いていました。



【実習生のコメント】

事務所の方や同行した企業の方は気を付けなければならない点をよく観察し、終了後の意見交換を活発に行っていた。全て基本的なことだったが、基本をきちんと行ってこそ事故を防げる、何事も基本が大切なのだという点を学んだ。

築川ダム建設事務所では、ダム建設事業の概要説明を受けたあと、根田茂川上流端付近の県道代替工事現場やダムサイト建設予定地等を見学しました。

実習生は、工事概要の説明等を熱心に聞いていました。

【実習生のコメント】

築川ダム建設事務所では、実際の現場で働く先輩からもお話を伺えて、現場で働くことにも凄くやりがいを感じた。業者さんとの連携が重要だとすることもできた。



全体を通して、実習生からは「充実した内容であった」こと、「将来、県職員として仕事をしたい」との感想をいただきました。

実習生の皆さん、お疲れ様でした！

建設技術講習会が盛岡市で開催されました

～第605回建設技術講習会（災害に強い国土・地域づくり）～

県土整備企画室

平成26年9月17日、18日に盛岡市で建設技術講習会が開催され、全国から約400名の自治体職員等が参加しました。今回は、「災害に強い国土・地域づくり」をテーマとし、「地震・津波防災のあり方」や「土砂災害・火山防災対策」など、東日本大震災津波や近年の気候変動により各地で発生している自然災害に対する予防的な対策の推進等に係る講習会を行いました。本県からは及川隆河川港湾担当技監が「岩手県における震災復旧・復興について」と題して、東日本大震災津波発災からの支援に感謝を申し上げるとともに、岩手県の復興の現状や課題について発表しました。

また、9月19日には、現場研修として陸前高田市や大船渡市等の東日本大震災津波の復旧・復興工事の状況を現地で説明し、工事の進み具合等について理解していただきました。



達増拓也知事による開会挨拶



及川隆河川港湾担当技監の発表



講習会の状況



現場研修の状況

（大船渡土木センター職員による説明状況）



現場研修の状況（陸前高田市職員による説明状況）

○建設技術講習会とは

全国の自治体等の建設技術者を対象に、（一財）全日本建設技術協会が開催する講習会。自然災害対策、社会資本の維持管理、事業実施における課題解決など、業務に直接役立つタイムリーな議題をテーマとしている。